

# 報 徳 看 護 専 門 学 校

令和 5 年度

報徳看護専門学校自己点検・自己評価結果  
学校関係者評価報告

報徳看護専門学校 学校評価委員会

## 目 次

### 【自己点検・自己評価】

1. 学校のディプロマポリシー .....	p1
2. 令和5年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画 .....	p3
3. 令和5年度自己点検・自己評価の実施・結果.....	p4
4. 評価項目の結果と課題	
1) 教育理念・目標 .....	p5
2) 学校運営 .....	p6
3) 教育活動 .....	p7
4) 学修成果 .....	p8
5) 学生支援 .....	p9
6) 教育環境	
7) 学生の受け入れ募集 .....	p10
8) 財務 .....	p11
9) 法令等の遵守	
10) 社会貢献・地域貢献 .....	p12

### 【学校関係者評価】

学校関係者評価報告.....	p13
----------------	-----

# 令和5年度報徳看護専門学校自己点検・自己評価報告書

## 1. 学校のディプロマポリシー(卒業時の学生像)

1. 人を尊重できる姿勢と高い倫理観をもった看護実践ができる。
2. 感性豊かな人間性が備わっている。
3. 対象を身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解し、受け入れられる。
4. 対象のニーズを考える視点をもち科学的思考に基づいた看護を実践できる。
5. 保健・医療・福祉チームの一員として協働・連携する自覚ができる。
6. 専門職として継続学習や専門性探求のための主体的学習ができる。
7. 自己の心身の健康を維持し、自己の行動に責任をもつことができる。

上記ディプロマポリシーについてルーブリックを用いて評価した。

### 各学年のディプロマポリシー達成目標レベル

学年達成目標	レベル1 (1年終了時)	必要性がわかる、知識としてわかる。
	レベル2 (2年終了時)	必要性がわかり、一部行動できる。
	レベル3 (3年次前期)	支援を受けて実践できる。行動できる。
	レベル4 (3年実習終了時)	少しの支援で実践できる。行動できる。

表1 各学年目標に達成した割合

項目	1年生 (レベル1)		2年生 (レベル2)		3年生 (レベル4)	
	学生数41人		学生数32		学生数25	
	人	(%)	人	(%)	人	(%)
1 人間尊重に基づいた倫理観のある看護実践能力	33	(80.5)	33	(62.5)	24	(96.0)
2 感性豊かな人間性が備わっている	33	(80.5)	33	(78.1)	25	(100.0)
3 統合的対象理解と他者を受け入れる能力	23	(56.2)	23	(81.2)	24	(96.0)
4 科学的思考に基づいた看護実践能力	26	(63.3)	26	(59.4)	22	(88.0)
5 チームとしての連携・協働	32	(77.7)	32	(81.3)	25	(100.0)
6 継続学習、主体的学習習慣、姿勢	25	(60.8)	25	(75.0)	24	(96.0)
7 自己の心身マネジメントと責任	30	(73.1)	30	(87.5)	24	(96.0)

各学年の4段階のディプロマポリシー達成目標レベルに達成した割合(表1)を示した。

1年次では項目3の56.2%を最低とし、その他の全ての項目で60%を達成した。特に項目1「人間尊重にも続いた倫理観のある看護実践」、項目2「感性豊かな人間性が備わっている」では80%以上が達成された。2年次では、項目4の59.4%を最低とし、その他の全ての項目で60%以上を達成した。特に項目3「統合的対象理解と他者を受け入れる能力」、項目5「チームとしての連携・協働」、項目7「自己の心身マネジメントと責任」においては80%以上が達成された。3年次では、項目4の88.0%を最低とし、その他のすべての項目で90%以上を達成した。特に項目2「感性豊かな人間性が備わっている」、項目5「チームとしての連携・協働」においては100%が達成された。

1年次の達成レベルの設定は、『必要性がわかる。知識としてわかる』である。項目3の達成レ

ベルが 56.2%にとどまったのは、項目である〈統合的対象理解と他者を受け入れる能力〉の「対象」「他者」を患者として考えると、1年次の臨地実習では対象と関わる時間が短く、その理解や経験が少ないことを指していると考えられる。これは、項目 3 が 2 年次、3 年次と学年が上がるごとに達成レベルがより高次に設定しているにもかかわらず、目標レベル達成度が上昇していることから推測され、臨地実習での経験の重要性が伺える。

項目 1、2、4 においては 1 年次より 2 年次の達成度が低下している。1 年次の回答は、主に机上学習により、これらの能力や自己について「理解している」と感覚的に回答している可能性がある。2 年生になり、一人の患者を受け持った基礎看護学実習により、より専門的な知識を活用し患者に合わせた看護を導き出すプロセスを実体験し、自身の知識や様々な技術の不足に気付いていると考えられる。3 年次にはこれらの達成レベルが上昇しているため、3 年次の臨地実習を経験することで自身の主体的学習につながり、活用できるだけの知識の定着と他者・自己理解が培われていくと考えられる。一方で、項目 1 の自身の倫理観や科学的思考に基づいた看護実践能力、項目 2 の感性豊かな人間性が備わっているかについては、本校学生が 1 年次から自己の人間性や倫理観について高い自尊感情を持っていると考えられる。

項目 3、5、6、7 においては、机上の学習内容を臨地実習での経験を通して、他者を受け入れる能力やチームとしての連携の実際を学べたこと、また、自身の継続した主体的学習習慣、心身のマネジメントを自己のコントロールで実施できたという自信につながっていると考えられる。

3 年次の達成レベルは卒業時の学生像に達していることを意味している。レベル 4 が未達成の学生が 12%と最多なのは、項目 4 の「対象のニーズの理解と科学的根拠に基づく看護実践」であった。これは臨地実習において適切な看護判断をするために必要な根拠、すなわち専門的知識が不足していることを表していると考えられる。

3 年次の回答は旧カリキュラムの実践結果であった。次年度の 3 年次は新カリキュラムによる学習計画となり実習期間が短縮される。替わって主体的学習時間は増加するため、実習前後の学習時間を活用し、臨地実習での学びがより深まるよう関わっていく必要がある。

## 2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

令和4年度の評価結果を基に、令和5年度の活動目標を以下のように設定し取り組んだ。

### 1) 令和5年度活動目標（重点目標）

1. 学生がディプロマポリシーを意識し、目的意識をもって学校生活を送れるように支援する。
2. 国家試験合格に向け、教員の情報共有を密にし、学生個々に合った支援をする。
3. 学校運営に関する学生の意見を聞く機会をつくり、相互理解を深め、主体性育てる。将来的に学生自治会をつくることを目指す。
4. 小さなハラスメントに組織全体で対処する（教職員と学生、教職員間）。

### 2) 重点目標の自己点検・自己評価項目による評価

	重点目標	自己点検・自己評価項目	項目の平均点		
			R5	R4	R3
1	教育理念・目的・DPの学生への意識づけ	1) ①②③④⑤	3.7	3.6	3.4
2	資格取得率（国家試験）の向上	4) ①	3.3	3.4	3.8
3	学校運営への学生意見反映、学生主体的な活動の場	2) ⑦	3.2	3.1	3.0
4	運営組織の機能と反映	2) ③	3.5	3.5	3.2

#### 目標1

授業や実習で学生が常にディプロマポリシーを意識できるよう働きかけていくことをすることにより、徐々に学生の意識づけが浸透してきている。今後は、更に、学校生活に反映できるように、学生に働きかけていく。

#### 目標2

看護師国家試験の合格に向けて、学校全体で学生支援に取り組んだ。学生への指導が教員によってとらえ方に若干の差があったとの評価があり、看護師国家試験対策の情報共有化の強化をしていく必要がある。

#### 目標3

鍵付きの意見箱の設置、学生から直接話を聴くことで、学校運営に関する学生の意見が聞くことができています。学生自治会の設置は、学生自らが行動するまでの主体性の円熟に時間を要すると考えられ、今後も引き続き課題とする。

#### 目標4

ハラスメント委員会の相談窓口を設置し、組織全体で対処することではできている。また、教員のハラスメントに対する学習の場をもち、常に意識づけをすることでハラスメント防止に努めており、今後も学習の機会を増やしていく。

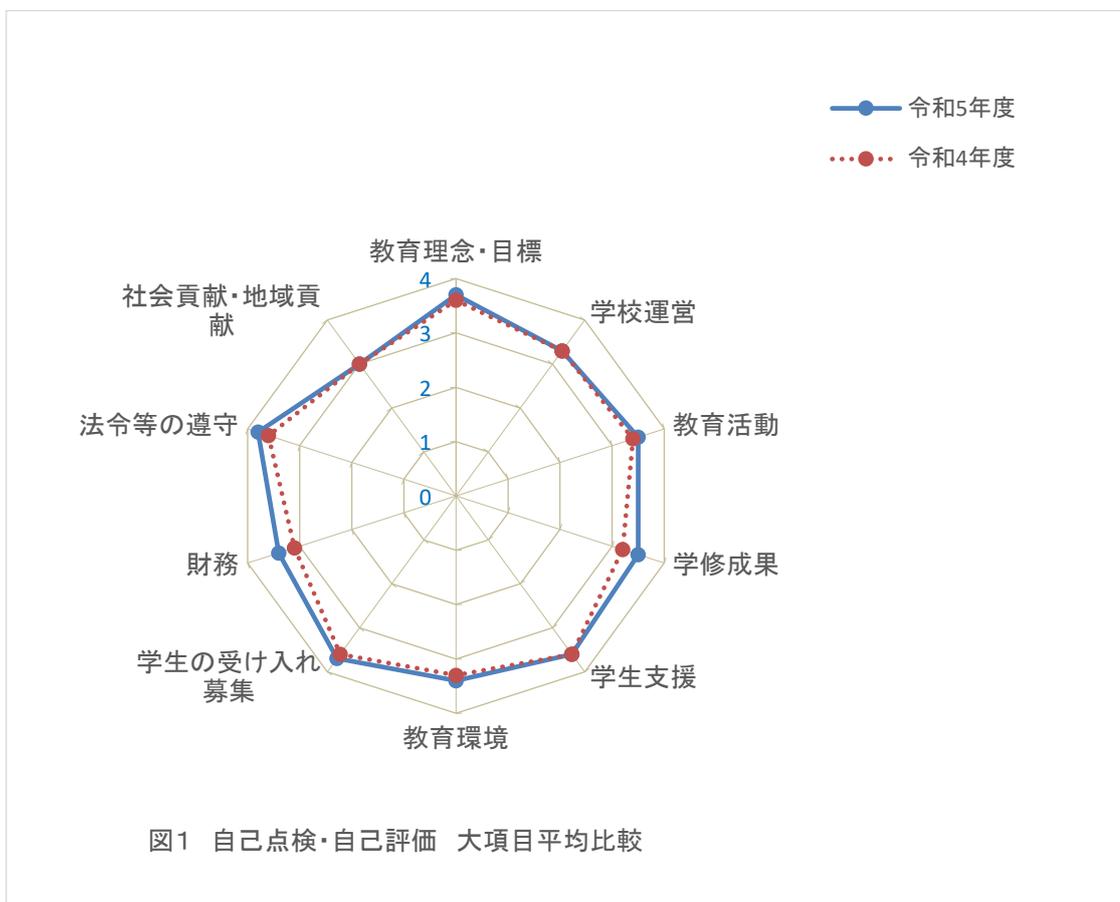
### 3. 令和5年度自己点検・自己評価の実施・結果

- 1) 実施日：2024年1月15日～2024年2月5日
- 2) 対象者：教職員18人（教員13人、事務職5人）
- 3) 評価項目：文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」に沿って実施したが、実施にあたり昨年度と同様に、全員が共通理解し適切な評価が行われるよう評価項目を見直した。大項目はレーダーチャート（図1）に示す。
- 4) 評価基準：

4 適切(当てはまる)
3 ほぼ適切(ほぼ当てはまる)
2 やや不適切(あまり当てはまらない)
1 不適切(当てはまらない)

- 5) 結果の大項目年度比較と課題：

令和5年度自己点検・自己評価の結果は、全体平均3.4であった。令和4年度の3.3より0.1上昇した。全10項目のうち7項目において上昇したが、特に上昇したのは「財務」と「法令等の遵守」である。これらは0.2～0.3の上昇であった。また、どの項目も3.0以上の平均値であるが、「学校運営」「学生支援」「社会貢献・地域貢献」の3つの項目は昨年度と変わらなかった。なおかつ、「社会貢献・地域貢献」は昨年度と同様に最低値であったため、今後もさらに力を入れて対策する項目と考える。



#### 4. 評価項目の結果と課題

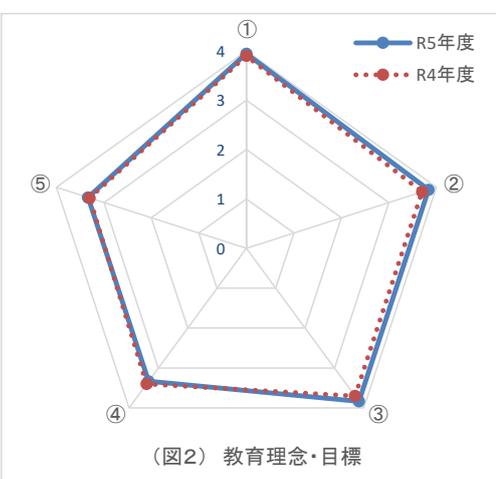
##### 1) 教育理念・目標(図2)

5項目中3項目および総平均点は昨年度を上回った。

昨年度は、『理念・教育目的・卒業時の学生像を学生に浸透させる』ことを課題としていた。

ディプロマポリシー（卒業時の学生像）は、学生が自己評価を行っており、1年次と2年次は年度末に、3年次は前期（9月）と後期（各看護学臨地実習履修後）に到達度を自己評価している。3年間で4回のディプロマポリシーの評価に取り組む機会があるが、この項目の今年度の平均点は昨年度を0.1下回っており、ディプロマポリシーが学生の学習活動の指針として浸透しているとは言い難いことが伺える。今後は、評価の機会だけでなく、入学時や新年度開始時（進級時）などにディプロマポリシーを確認する機会を設け学生の学習活動に浸透することが課題である。

評価項目	平均点	
	R5年度	R4年度
① 教育理念・教育目的・ディプロマポリシー（卒業時の学生像）を明文化している。	3.9	3.9
② 学校における看護教育の特色が定められている。	3.8	3.7
③ 教育理念、教育目的、ディプロマポリシー（卒業時の学生像）は教職員の教育活動の指針になっている。	3.8	3.7
④ 教育理念、教育目的、ディプロマポリシー（卒業時の学生像）は学生の学習活動の指針として浸透している。	3.3	3.4
⑤ 教育目標・ディプロマポリシー（卒業時の学生像）は地域社会のニーズを踏まえている。	3.3	3.3
総平均点	3.7	3.6



## 2) 学校運営(図3)

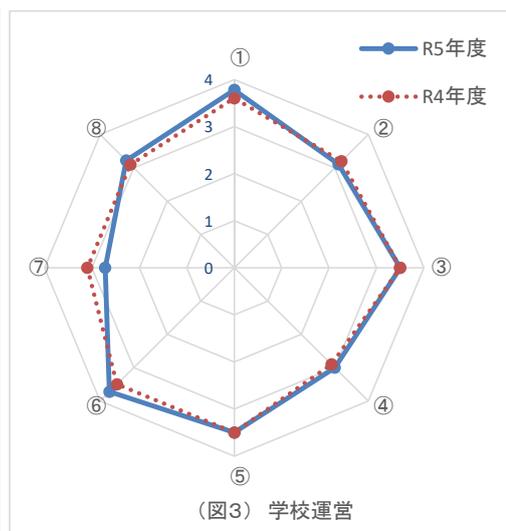
8項目中4項目は昨年度の平均点を上回り、総平均点は昨年度と同じであった。昨年度の平均点を下回った項目は「② 事業計画に沿った財政基盤、施設設備、運営計画と将来構想の明文化がされている。」と「⑦ 情報システム化等による業務の効率化が図られている。」の2つである。

昨年度は、『学校のホームページを活用し業務の効率化を考える』ことが課題であったが、今年度「⑦ 情報システム化等による業務の効率化が図られている。」の項目が昨年度の平均点を下回っていることは、業務の効率化が図られていないことが考えられる。学校ホームページの活用から業務改善に取り組んできたが、今後さらに活用することが課題である。

令和6年度からは、用紙で配布していた健康チェック表を廃止する予定であり、また、出欠席管理における欠席・欠課届用紙の確認・管理方法を検討したいと考える。これらは、クラス担当教員がクラス運営に取り組む上で、業務にかかる時間を多く要するものである。よって、これらを廃止や方法を検討することで業務の効率化を図りたいと考える。

評価項目の「② 事業計画に沿った財政基盤、施設設備、運営計画と将来構想の明文化」は、昨年度よりも0.1低い評価となった。学校運営の見通しとなるものが明文化され、周知されることが今後の課題である。

評価項目	平均点	
	R5年度	R4年度
① 教育目的に沿った教育方針・活動目標が明確化し運営されている。	3.8	3.6
② 事業計画に沿った財政基盤、施設設備、運営計画と将来構想の明文化がされている。	3.1	3.2
③ 運営組織や意思決定システムは諸規定に明文化され、運営会議および教職員会議等に反映されて機能している。	3.5	3.5
④ 人事、給与に関する制度が諸規定に明文化され、教職員に周知されている。	3.0	2.9
⑤ 教務及び事務の組織が整備され、校務分掌は明文化されている。	3.5	3.5
⑥ 教育活動に関する情報公開が、自己評価結果の公開等により適切になされている。	3.7	3.5
⑦ 情報システム化等による業務の効率化が図られている。	2.7	3.1
⑧ 学生の意見が学生主体の運営活動の場等で反映されるように努めている。	3.2	3.1
総平均点	3.3	3.3



### 3) 教育活動(図4)

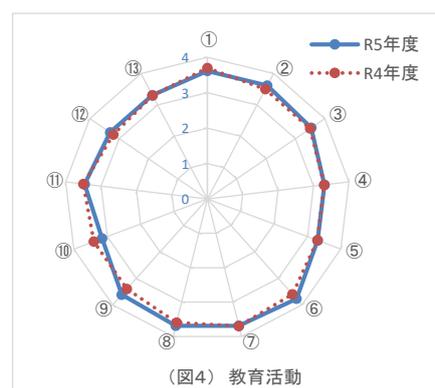
総平均点は昨年度を0.1上回った。

昨年度の平均点を下回った項目は、「① 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されている。」と「⑩ ディプロマポリシー（卒業時の学生像）への育成に向け授業を行うことができるよう、教員の資質向上のための取組みが行われている。」の項目であった。

「① 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されている。」は、新カリキュラムの構築時に、旧カリキュラムの見直しを行い、新カリキュラムの運営開始に向け教育理念等を含め共通理解をはかっていた。しかし、平均点が昨年度を下回っていることから、今後折に触れて、共通理解をはかっていくことが必要である。

「⑩ ディプロマポリシー（卒業時の学生像）への育成に向け授業を行うことができるよう、教員の資質向上のための取組みが行われている。」は、昨年度も課題の項目であった。平均点が下回っていることは、教員それぞれが自己の教育力向上の機会を設けられず、日々の教育に対して達成感を得られていないことが伺える。また、今年度は夏期研修を実施していないことから資質向上のための取組が行えていないものとする。令和6年1月より、2年生の臨地実習が新カリキュラムで開始され、臨地実習期間の短縮にともない、各教員の自己研鑽の時間確保が期待でき、教員の資質向上に取り組みたい。合わせて、今年度実施出来なかった夏期研修を計画したいと考える。

評価項目	平均点	
	R5年度	R4年度
① 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されている。	3.6	3.7
② 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえ、修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保が明確にされている。	3.6	3.5
③ カリキュラムは学習内容にまとまりがあり、順序性をふまえて構築されている。	3.5	3.5
④ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されている。	3.3	3.3
⑤ 関連分野の関係施設等との連携によりカリキュラムの作成と見直し等が行われている。	3.3	3.3
⑥ 授業評価の具体的な実施・評価体制がある。	3.8	3.6
⑦ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れている。	3.7	3.7
⑧ 成績評価・単位認定の基準は明確になっている。	3.7	3.6
⑨ 資格取得の指導体制があり、カリキュラムとの関連した位置づけである。	3.6	3.4
⑩ ディプロマポリシー（卒業時の学生像）への育成に向け授業を行うことができるよう、教員の資質向上のための取組みが行われている。	3.2	3.4
⑪ 授業が実務経験のある優れた教員（専任・兼任含め）により行われるよう、関連分野における業界等との連携においてその確保に努めている。	3.5	3.5
⑫ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われている。	3.3	3.2
⑬ 職員の能力開発のための研修、学会等への参加が積極的に行われている。	3.3	3.3
総平均点	3.5	3.4



#### 4) 学修成果(図5)

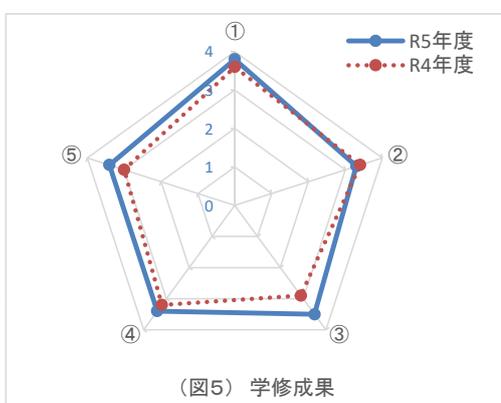
総平均点は昨年度を0.3上回った。

昨年度を下回った項目は「② 資格取得率（国家試験）の向上が図られている。」である。

これは、令和4年度（令和5年実施）に本校学生が受験した第112回看護師国家試験の本校の合格率が第111回受験の合格率より下がったことによる。

看護師国家試験への本格的な学習の取組は、全ての臨地実習が終了した後となるが、低学年次から成績が伸び悩んでいる学生は、この時期からの学習では対策が遅れてしまうことが懸念される。今後も1年次から国家試験を意識づけ、対策に向けた学習に取り組めるよう、より一層支援が必要と考える。また、昨年度の学校関係者評価において「クラス全体の国家試験に向けた雰囲気づくりも大切であり、皆で国試に向けて進んで行こうという雰囲気作りも重要である。」と助言を頂いた。学生支援においては、クラスの学生が一致団結して、お互いが協力し合いながら学習へ取組めることを重点におくことが大切であると考えます。

	評価項目	平均点	
		R5年度	R4年度
①	就業率の向上が図られている。	3.8	3.6
②	資格取得率（国家試験）の向上が図られている。	3.3	3.4
③	退学率の低減が図られている。	3.5	2.9
④	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握する活動が行われている。	3.4	3.2
⑤	卒業生のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されている。	3.4	3.0
総平均点		3.5	3.2



(図5) 学修成果

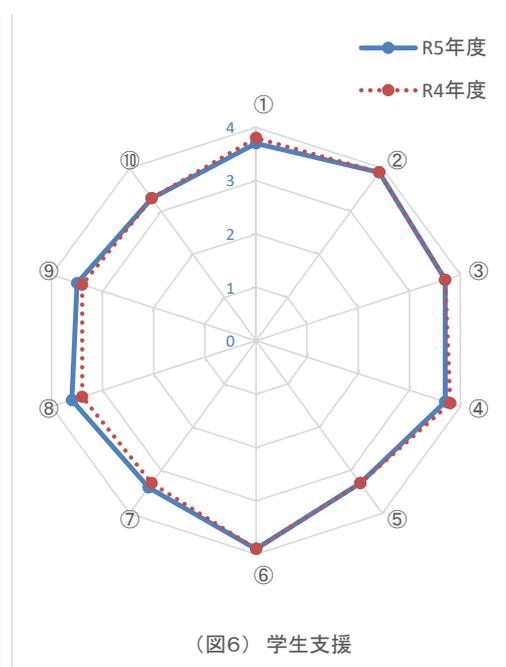
## 5) 学生支援(図6)

各項目の平均点は、おおよそ昨年度を上回り、総平均点は昨年度と同様であった。

昨年度の平均点を下回った項目は「① 進路・就職に関する支援体制が整備されている。」と「④ 学生の健康管理を担う組織体制がある。」である。

進路・就職に関する支援は、主に担任の役割に位置付けておりクラス担当教員が支援に関っている。学生は看護職への就職等が初めてであるため、時間をかけた丁寧な支援が必要であることを考えると、クラス担当教員以外の教員も関わるなどの工夫を検討し、学生が望む進路へ進めるようにすることが必要と考える。

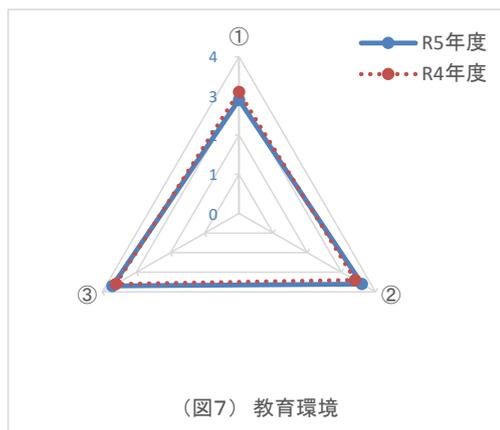
評価項目	平均点	
	R5年度	R4年度
① 進路・就職に関する支援体制が整備されている。	3.7	3.8
② スクールカウンセラーの配置など学生の健康や学生相談に関する体制を整備している。	3.9	3.9
③ 学生の経済的側面に対する支援体制が整備されている。	3.7	3.7
④ 学生の健康管理を担う組織体制がある。	3.7	3.8
⑤ 課外活動に対する支援体制は整備されている。	3.3	3.3
⑥ 学生の安全管理（災害共済保険加入等）を行っている。	3.9	3.9
⑦ 保護者に定期的に情報提供を行っている。	3.4	3.3
⑧ 卒業生への進学、就労に関する支援体制が整備されている。	3.6	3.4
⑨ 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されている。	3.5	3.4
⑩ 看護職が社会で果たす役割とその遂行に必要な専門的な技能の育成および職業的自立に向けた支援体制が、看護分野における臨床との連携により行われている。	3.3	3.3
<b>総平均点</b>	<b>3.6</b>	<b>3.6</b>



## 6) 教育環境(図7)

総平均点は昨年度を上回り、3項目中2項目も昨年度を上回った。昨年度を下回った項目は「① 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されている。」である。この項目は、昨年度も総平均点を下回った項目である。Wi-Fiなどは補助金を受け増設されたが、通信が必要になる授業によっては学習活動に支障を来すこともある。学生に貸与しているiPadは更新の必要性があったが、同窓会からの支援を受けて新たに購入することができた。また、早急に対応されたが、今年度はエアコンが故障し数台入れ替えた。設備の老朽化は進んでいる為、施設・設備の見直しや整備を計画し、教職員全員で共通認識しておくことが必要と考える。

評価項目	平均点	
	R5年度	R4年度
① 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されている。	2.9	3.1
② 実習目標が達成されるよう実習環境が整備されている。	3.6	3.4
③ 防災訓練を含め、防災に対する体制が整備され防災計画を基に実行されている。	3.7	3.6
総平均点	3.4	3.3



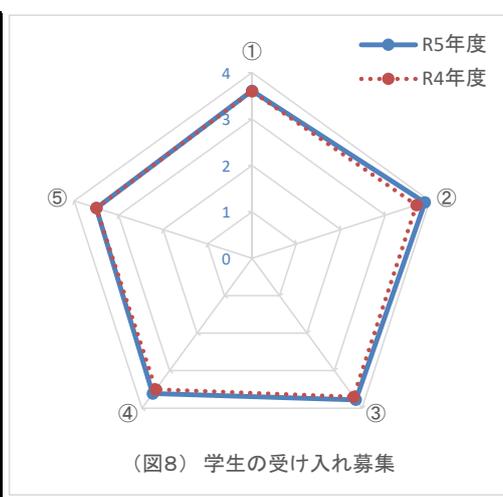
## 7) 学生の受け入れ募集(図8)

全ての項目および総平均点が昨年度を上回った。

昨年度は『募集活動にSNSの活用』、『さらなる活発な広報活動』を課題としていた。

募集活動や広報活動は、入試委員会で検討され計画されているが、オンライン看板等の活用などへ取り組んでいる。閲覧状況等をデータに、その効果等を評価している。今後も、募集活動および広報活動へ力を入れたいと考える。

評価項目	平均点	
	R5年度	R4年度
① 学生募集広報活動の時期、方法は、効果的かつ適正に行われている。	3.6	3.6
② 学生募集活動において、資格取得・就職状況情報は正確に伝えられている。	3.9	3.7
③ 学納金(入学や在学中に係る費用等)の情報は明示されている。	3.8	3.7
④ 学生の受け入れ方針に基づき、入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、見直しが行われ入学者選抜を適正に実施している。	3.6	3.5
⑤ 志願者状況、定員充足率の分析・評価を募集活動の向上に活かしている。	3.5	3.5
総平均点	3.7	3.6



## 8) 財務(図9)

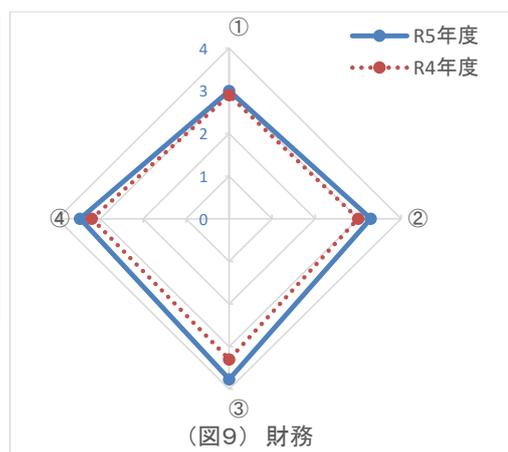
総平均点および全ての項目について昨年度を上回った。

昨年度は、電力省エネルギーへの活動を通じた財政基盤の安定が課題であった。

エアコンや教室のこまめな消灯などを具体策としていたが、それらが点いたままのことが度々あり、取り組めていない状況があった。

今年度は、エアコンが故障し更新した。今後も、電力省エネルギーへ取組み、少しでも財政基盤の安定化につなげたい。

評価項目	平均点	
	R5年度	R4年度
① 中長期的に学校の財務基盤は安定している。	3.0	2.9
② 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっている。	3.3	3.0
③ 財務について法人の会計監査が適正に行われている。	3.8	3.3
④ 法人としての財務情報公開の体制整備はできている。	3.5	3.2
<b>総平均点</b>	<b>3.4</b>	<b>3.1</b>



## 9) 法令等の遵守(図10)

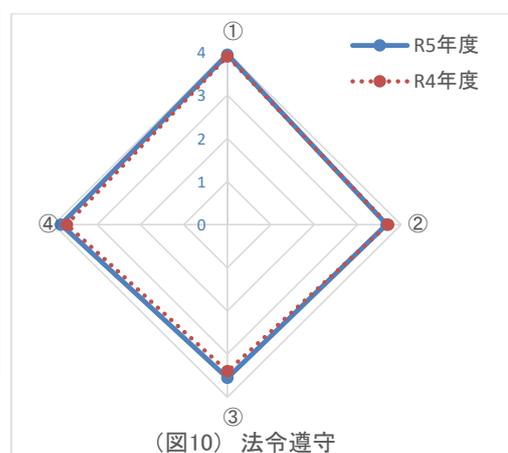
総平均点および全ての項目において昨年度と同じ、または上回った。

昨年度は、自己点検・自己評価からの具体的な改善策の検討および共有が課題であった。

職員会議において、各役割における活動の振り返りおよび翌年度の活動計画が周知され、職員全員で改善策の共有がなされる機会となる。今後も継続し、職員全体で改善に取り組むたい。

今年度、「② 個人情報に関し、その保護のための対策がとられている。」の項目は、昨年度の平均点と同様であり、上昇がみられなかった。今年度は、学生の学習活動において、法令順守が必要な行動が見受けられたこともあり、今後も個人情報の保護に取り組む必要がある。

評価項目	平均点	
	R5年度	R4年度
① 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされている。	3.9	3.9
② 個人情報に関し、その保護のための対策がとられている。	3.7	3.7
③ 自己評価の実施と問題点の改善に努めている。	3.6	3.4
④ 自己評価結果及び学校関係者評価結果を学校のホームページへ掲載し閲覧制限なく公開している。	3.8	3.7
<b>総平均点</b>	<b>3.8</b>	<b>3.6</b>



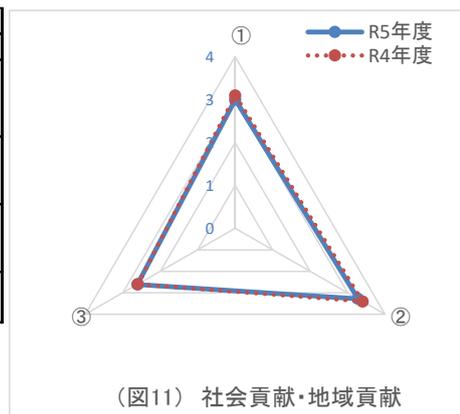
## 10) 社会貢献・地域貢献(図 11)

総平均点は昨年度と同様であったが、3項目中2項目が昨年度の平均点を下回った。

昨年度を下回った項目は「① 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っている。」と「② 学生のボランティア活動を奨励・支援している。」である。

今年度は、新型コロナウイルス感染症が5類に分類されたことを受け、学校祭も一般公開を再開し地域の方に来て頂いた。また、リレーフォーライフジャパン栃木へ参加しボランティア活動へも取り組んだ。しかし、平均点が昨年度を下回っているため、ボランティアを支援する体制づくり等を含め、地域貢献・社会貢献に今後も、更に取り組んで行く必要がある。

評価項目	平均点	
	R5年度	R4年度
① 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っている。	3.0	3.1
② 学生のボランティア活動を奨励・支援している。	3.3	3.4
③ 地域に対する公開講座の受託等を積極的に実施している。	2.6	2.6
総平均点	3.0	3.0



# 学校関係者評価報告

令和6年7月

報徳看護専門学校  
学校関係者評価委員会

「令和5年度 報徳看護専門学校自己点検・自己評価結果」を基に学校関係者評価を行った結果を報告いたします。

## 1. 学校関係者評価委員

- ・実習施設の看護部長
- ・医療法人報徳会統括事務長
- ・同窓会会長
- ・保護者代表

## 2. 評価結果

### (1) 学校のディプロマ・ポリシー（卒業時の学生像）の評価について

各学年目標に達した割合について3年次のすべての項目が80%を超えており「倫理観のある看護実践能力」で96%と評価されているところが、学校側の先生方が倫理的なところを視点に関わっていただいているのがよい。又、昨年よりも3年次の到達レベルが上がっているのは素晴らしい。なお1年生から2年生になったことで下がった理由が良く評価されている。

### (2) 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画について

- ・目標1 「学生がディプロマ・ポリシーを意識し、目標意識を持って学校生活を送れるように支援する」について、理念・教育目標・卒業時の学生像を学生に浸透させるというところから評価していること及びコロナ禍以降の実習の具体的な働きかけについて確認した。
- ・目標2 「国家試験の合格に向け、教員の情報共有を密にし、学生個々にあった支援をする」について、学生への指導が教員によってとらえ方に若干の差があったことの影響及びその取り組み結果への今後の評価について確認した。
- ・目標4 「小さなハラスメントに組織全体で対処する」について、ハラスメントの区分の大小について具体的に確認した。

### (4) 評価項目の結果と課題

#### 2) 学校運営について

- ・評価項目⑦「情報システム化等による業務の効率化が図られている」について抽象的な項目のために意図を確認したところ、iPadに関する問題点等を聞いて病院と同様な苦労があることを評価として理解した。
- ・デジタル化について学生間でパソコンの習熟度に差があるので、出来ない学生を救う方法を検討していただきたい。

#### 3) 教育活動について

- ・新型コロナが5類に変更になったことに伴い教員の研修や学習を積極的に参加していただきたい。
- 4) 学修成果について
- ・国家試験について、新卒だけでなく既卒の方の合格率が上がっている。卒業してしまえば終わりということでは無く、引き続き最終的な合格への意欲を示していただきた。本校の強みは国家試験の合格率なので学生募集のためにも合格率を上げていただきたい。
  - ・学生の国家試験対策について、昨年実施したような勉強会の方法を引き続きお願いしたい。
- 6) 教育環境について
- ・施設、設備の修繕等具体的な計画に沿って行っていただきたい。
- 7) 学生の受け入れ募集について
- ・インターネットを通じての募集広告の方法について多くの人に積極的に働きかける方法を検討していただきたい。
- 8) 財務について
- ・省エネに関して引き続き関心を持って学校運営にあたっていただきたい。
- 10) 社会貢献・地域貢献について
- ・コロナ感染が5類に変更されたことに伴い積極的な社会貢献、ボランティア活動を計画していただきたい。

以上

**【お問い合わせ先】**

報徳看護専門学校 学校評価委員会

住所：栃木県宇都宮市上横田町1302-12

TEL：028-688-4040（代）